

芥川龍之介「炎天や蝶をとめたる馬の糞」ほか俳句草稿
芥川龍之介「花火より遠き人ありと思ひけり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「野茨にからまる萩のさかりかな」自画賛
芥川龍之介「いく秋をふる盃や酒のいろ」俳句草稿
芥川龍之介「地煙草の煙も垂るる夜長かな」俳句草稿
芥川龍之介「たばこすふ煙の垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「雁啼くや芥火燃ゆる裏河原」「仇めきたる暮露のものがし」ほか連句草稿
芥川龍之介「Impromptu」俳句草稿
芥川龍之介「はつ時雨ありとも見えぬ飛行機や」ほか俳句草稿
芥川龍之介「雪のこる廬山に来れば夜半の雨」ほか俳句草稿
芥川龍之介「生け垣はかたかげりつつ山茶花や」ほか俳句草稿
芥川龍之介「みぞるるや犬の来てねる炭俵」他俳句草稿
芥川龍之介「咲きたらぬ庚申薔薇を青嵐」他俳句草稿
芥川龍之介〈芭蕉雑記〉草稿
芥川龍之介 飯田蛇笏宛書簡 1923（大正12）年12月1日〈複製〉
飯田蛇笏 芥川龍之介宛書簡 1926（昭和元）年12月29日〈複製〉
「ホトトギス」1918（大正7）年9月
「ホトトギス」1919（大正8）年3月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月 新潮社〈復刻〉
「雲母」1927（昭和2）年9月号
『澄江堂句集』1927（昭和2）年12月 文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」幅〈複製〉
芥川龍之介「水虎晚帰之図」額〈複製〉
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介 山梨夏期大学講演メモ〈複製〉

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月 春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914（大正3）年1月21日〈複製〉
原本 大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室寄託

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918（大正7）年8月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

「赤い鳥」創刊号 1918（大正7）年7月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月 改造社〈復刻〉

芥川龍之介作 楽焼皿「小心火盗」
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黒坂】

蛇笏・龍太使用の硯（億兆会贈呈、木製蓋付き、雨畑硯）
飯田家家相図 1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

写真パネル 早稲田大学時代の蛇笏
「ホトトギス」第12巻第1号 1908（明治41）年10月「俳諧散心号」〈複製〉
若山牧水 飯田蛇笏書簡 1910（明治43）年8月22日
「国民新聞」切り抜き
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」額装 1914（大正3）年〈複製〉原本 個人蔵
「ホトトギス」1914（大正3）年11月「芋の露」巻頭号〈パネル〉
「ホトトギス」雑詠欄投稿〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
「キララ」創刊号 1915（大正4）年5月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵
「キララ」第2号 1915（大正4）年6月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛭かな」額装 1927（昭和2）年〈複製〉
飯田蛇笏「行くほどにかげろふ深き山路哉」幅 1929（昭和4）年
飯田蛇笏「山寺の扉に雲あそぶ彼岸哉」短冊 1916（大正5）年
飯田蛇笏「素裸に熟睡したる籐椅子哉」短冊 1927（昭和2）年
飯田蛇笏「露すゞし鎌にかけたる葛のつる」短冊 1929（昭和4）年
飯田蛇笏「冬晴や杭の禽を射ておとす」短冊 1931（昭和6）年
写真パネル 家族と庭前で 1917（大正6）年撮影
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月 雲母社 装幀 川端龍子
飯田蛇笏『山廬集』序文原稿〈複製〉
室生犀星 飯田蛇笏宛書簡 1932（昭和7）年12月28日
小川千甕「甲州紀行画卷」1928（昭和3）年11月
高浜虚子『進むべき俳句の道』1918（大正7）年7月 実業之日本社
村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」色紙
村上鬼城「瘦馬のあはれ機嫌や秋高し」短冊
渡辺水巴「秋風やつく糸の上の小人形」短冊
渡辺水巴「土雛はむかし流人や作りけん」色紙
前田普羅「荒梅雨や山家の煙這ひまはる」短冊
前田普羅「山桃の日かげと知らで通りけり」短冊
原石鼎「満ちしほにすでに灯つらね川開」短冊
原石鼎「いつも彼の孀なんばん畑に一重帯」短冊
飯田蛇笏「小野の鳶雲に上りて春めきぬ」幅 1935（昭和10）年
飯田蛇笏「水あかりでゝ虫巖を落ちにけり」額装 1936（昭和11）年
飯田蛇笏「鐵の秋の風鈴鳴りにけり」幅 1933（昭和8）年
飯田蛇笏「秋しばし寂日輪をこずゑ哉」幅 1935（昭和10）年
飯田蛇笏「狩くらの雲にあらはれ寒の鳶」幅 1935（昭和10）年
飯田蛇笏「嶽腹を雲うつりみる清水かな」幅 1938（昭和13）年
飯田蛇笏「雪やみて山嶽すわる日の光り」幅 1944（昭和19）年
飯田蛇笏「春ぬくゝ野の禽桑をのぼりけり」短冊 1946（昭和21）年
飯田蛇笏『穢土寂光』1936（昭和11）年12月 野田書房
飯田蛇笏『靈芝』1937（昭和12）年6月 改造社
飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月 河出書房
飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年2月 起山房 装幀 露谷虹兒
飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年7月 改造社 装幀 木村荘八
飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月 靖文社

飯田蛇笏「心像」句稿 1943（昭和18）年部分（複製）
写真パネル 飯田龍太撮影 炉辺の蛇笏 1956（昭和31）年1月撮影
「雲母」復刊号 1946（昭和21）年3月
飯田蛇笏『雪峽』1951（昭和26）年12月 創元社
飯田蛇笏「風さえて宙にまぎるゝ白梅花」幅 1951（昭和26）年
飯田蛇笏「ふゆに入る真夜中あらし月の雨」幅 1950（昭和25）年
飯田蛇笏「おく霜を照る日静かに忘れけり」幅 1953（昭和28）年（複製）原本 個人蔵
飯田蛇笏「山吹の落葉し尽す露の川」色紙 1953（昭和28）年
飯田蛇笏「山ふかき飛瀑をのぼる大揚羽」色紙 1959（昭和34）年
飯田蛇笏「御魂祭折から月の上るなり」短冊 1961（昭和36）年（複製）原本 個人蔵
飯田蛇笏『家郷の霧』1956（昭和31）年11月 角川書店
写真パネル 1958年4月8日、門前を歩く蛇笏と龍太・小林富司夫 撮影 若林賢明
「雲母」1962（昭和37）年10月 蛇笏遺句「山月」掲載
「雲母」1962（昭和37）年11月号 龍太「山廬永別」掲載
「雲母」飯田蛇笏特集号 1963（昭和38）年3・4月
飯田蛇笏『椿花集』1966（昭和41）年5月 角川書店
高浜虚子「山廬」扁額（複製）
遺品 万年筆・懐中時計・落款印・印譜
西島麥南「菊活くる水絨毯にまろびけり」短冊
西島麥南「堆の霜爐はもみぢを尽くしけり」短冊
石原舟月「秋の風かまつかの炎をはなれては」短冊
宮武寒々「彼岸西風炎の如く塔登る」短冊
宮武寒々「すぐろ野を来し姪の靴大人びぬ」短冊
中川宋淵「たらちねの生れぬ前の月明り」短冊
松村蒼石「枯々てやすらぎの葦芽ぐむなり」短冊
松村蒼石「たわたわとうすら氷にのる鴨の脚」短冊
高室呉龍「初蝶やたかゝらねどもひるがへる」短冊
高橋淡路女「螢火をとりおとしたる青さかな」短冊
高橋淡路女「走馬燈ところに人をまつ夜かな」短冊
柴田白葉女「林泉に日輪映り黒鳳蝶」短冊
柴田白葉女「山の雨やみ冬椿濃かりけり」短冊

【飯田龍太】

写真パネル 甲府中学5年 1937（昭和12）年頃
写真パネル 百戸の谿口絵写真
飯田龍太「母が割るかすかながらも林檎の音」短冊 1949（昭和24）年
飯田龍太「紺絳春月おもく出てしかな」短冊 1951（昭和26）年
飯田龍太「紺絳春月おもく出てしかな」色紙 1951（昭和26）年
飯田龍太「大寒の一戸もかくれなき故郷」色紙 1954（昭和29）年
「雲母」1951（昭和26）年6月「紺絳」巻頭号
飯田龍太「雪の峰しづかに春ののぼりゆく」幅 1954（昭和29）年
飯田龍太『百戸の谿』1954（昭和29）年8月 書林新甲鳥
飯田龍太『童眸』1959（昭和34）年3月 角川書店
飯田龍太『麓の人』1965（昭和40）年11月 雲母社 雲母叢書第29篇
飯田龍太『忘音』1968（昭和43）年11月 牧羊社「現代俳句十五人集」第1巻
飯田龍太「つばめ去る鶏鳴もまた糸のごと」幅 1964（昭和39）年
飯田龍太「山々のはればねむる深雪かな」1966（昭和41）年
飯田龍太「どの子にも涼しく風の吹く日かな」幅 1966（昭和41）年
飯田龍太「春暁の竹筒にある筆二本」額装 1967（昭和42）年
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」幅 1969（昭和44）年

飯田龍太「一月の川一月の谷の中」幅 1969（昭和44）年〈複製〉
「俳句」1969（昭和44）年2月号「明るい谷間」掲載
写真パネル 山廬裏手の竹林にて 昭和30年代後半 撮影 若林賢明
飯田龍太『春の道』1971（昭和46）年10月 牧羊社
飯田龍太旧蔵釣り竿・釣り道具
飯田龍太旧蔵釣り竿「わすれね」（井伏鱒二箱書き）
井伏鱒二ほか「幸富講」寄せ書き 額装 1970（昭和45）年秋
飯田龍太 井伏鱒二宛書簡 1971（昭和46）年3月2日
吉岡堅二画・飯田龍太賛「かたつむり甲斐も信濃も雨のなか」額装
飯田龍太「三伏の闇はるかより露のこゑ」幅 1973（昭和48）年
飯田龍太「遠くまで諸葉のそよぐ夏景色」幅 1974（昭和49）年
飯田龍太「去るものは去りまた充ちて秋の空」幅 1978（昭和53）年
写真パネル 山廬庭前にて 撮影 斉藤勝久 提供 角川学芸出版
飯田龍太『山の木』1975（昭和50）年4月30日 立風書房
飯田龍太『山の木』草稿
飯田龍太『涼夜』1977（昭和52）年9月 五月書房和装本シリーズの1巻、限定400部
飯田龍太『今昔』1981（昭和56）年11月 立風書房 題簽 飯田龍太 篆刻 寺西健 装丁 前川直
飯田龍太『山の影』1985（昭和60）年7月 立風書房 題字 飯田龍太 装丁 前川直
飯田龍太『龍太俳句鑑賞—秀句の条件』1982（昭和57）年9月 実業之日本社
飯田龍太『龍太俳句教室』1977（昭和52）年2月 実業之日本社
飯田龍太『龍太俳句作法』1978（昭和53）年1月 実業之日本社
飯田龍太使用の落款印
飯田龍太印譜
飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」幅 1985（昭和60）年
飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」色紙 1985（昭和60）年
飯田龍太「なにはともあれ山に雨山は春」扇面額 1987（昭和62）年
飯田龍太「なにはともあれ山に雨山は春」扇面額 1987（昭和62）年〈複製〉
飯田龍太「山起伏してみだれなき大暑かな」色紙 1983（昭和58）年
飯田龍太「動かざる嶺あればこそ大暑かな」色紙 1988（昭和63）年
飯田龍太『遅速』1991（平成3）年12月 立風書房 装幀 菊地信義
飯田龍太「『雲母』の終刊について」原稿（写し）「雲母」1992（平成4）年7月掲載
「雲母」終刊号 1992（平成4）年8月
飯田龍太『一枝一花』（1978年3月 サンケイ新聞社）より
「ねむる嬰兒水あげてゐる薔薇のごとし」「山の雨たつぷりかかる蝸牛」「群嶺群雲紫陽花の
季なりけり」「たのしさとさびしき隣る瀧の音」
飯田龍太自句自解原稿「なにはともあれ山に雨山は春」「滝音はひかりを含み春の雪」「百千鳥雌藜雄
藜を囀すなり」「老騎手は出湯に沈み春の雲」「遠くまで海ゆれてゐる大暑かな」
飯田龍太「おくの細道雑感」原稿
飯田龍太「碑のことなど」原稿
飯田龍太「山麓日記」第1回、第2回原稿
飯田龍太『無数の目』1972（昭和47）年11月 角川書店
飯田龍太『思い浮ぶこと』1978（昭和53）年10月 中央公論社
飯田龍太『山居四望』1984（昭和59）年10月 講談社
飯田龍太『紺の記憶』1994（平成6）年7月 角川書店 装画 船越保武
飯田龍太『遠い日のこと』1997（平成9）年6月 角川書店 装画 萩原英雄
飯田龍太愛用カメラ 二眼レフ（ミノルタ）
写真パネル 小黒坂の風景（村の女性・狐川上流）撮影 飯田龍太
飯田龍太貼り交ぜ屏風

第5室 山梨出身・ゆかりの作家と作品

前期展示49名 4月26日(土)～9月7日(日)

【ジャーナリズム】

徳富蘇峰

徳富蘇峰『烟霞勝遊記』上・下 1924(大正13)年 民友社
徳富蘇峰 藤谷真淵宛書簡 1950(昭和25)年12月29日
藤谷みさを『蘇峰先生の人間像』1958(昭和33)年1月 明玄書房

池辺三山

池辺三山「新聞記者の地位」『山梨日日新聞』1888(明治21)年1月12日(パネル)

川合信水

「女学雑誌」第338号 1893(明治26)年2月
川合信水『吾が体験の道』1925(大正14)年9月 生々社

石橋湛山

石橋湛山 中村星湖宛書簡 1961(昭和36)年12月30日消印
『石橋湛山写真譜』1973(昭和48)年3月 東洋経済新報社

廣瀬千香

廣瀬千香「共古日録」メモ
『山中共古ノート』第1～3集 1973(昭和48)年6月～1975(昭和50)年6月
廣瀬千香『思ひ出雑多帖』1990(平成2)年7月 日本古書通信社
廣瀬千香「箸もつ筆もつたまさか針も」色紙

川合 仁

川合仁『私の知っている人達』1970(昭和45)年10月 藤書房
川合仁刊行会『回想・川合仁』1975(昭和50)年4月 川合澄男

望月百合子

望月百合子『大陸に生きる』1941(昭和16)年5月 大和書店
望月百合子『限りない自由を生きて』1988(昭和63)年3月 ドメス出版
矢崎千代二画「望月百合子肖像」

雨宮庸蔵

雨宮庸蔵『偲ぶ草』1988(昭和63)年11月 中央公論社
坪内逍遙「研精草思」^{けんせいいたんし}色紙

竹中 労

竹中労『無頼と荊冠』1973(昭和48)年9月 三笠書房
竹中労ほか「夢よ少年懐古浅草の灯よチャンバラ時よ」色紙 1977年6月8日
竹中労『鞍馬天狗のおじさんは』1992(平成4)年8月 ちくま文庫
竹中労『ザ・ビートルズレポート』1982(昭和57)年6月 白夜叢書
竹中労『仮面を剥ぐ』1983(昭和58)年2月 幸津出版
竹中労『無頼の墓碑銘』1991(平成3)年8月 KKベストセラーズ

【小説・評論・随筆・翻訳ほか】

相田隆太郎

相田隆太郎『テクノクラシイ』1933(昭和8)年4月 新潮社
相田隆太郎『農民文学の諸問題』1949(昭和24)年4月 甲陽書房

和田芳恵

和田芳恵「灯」草稿

和田芳恵『接木の台』1974（昭和49）年9月 河出書房新社

山田多賀市

山田多賀市『耕土』1940（昭和15）年3月 大観堂書店

「農民文学」創刊号 1951（昭和26）年9月 農民文化協会

新田次郎

新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年2月再版 朋文堂

新田次郎「富士と私」原稿

新田次郎「第二の古里 富士のもと生るも死ぬもこれ運命」色紙

石原文雄

「中部文学」創刊号 1940（昭和15）年4月

石原文雄『断崖の村』1946（昭和21）年7月 高須書房

のむら清六画 石原文雄肖像

藤巻宜城

「あぢさゐ」5月号 1922（大正11）年5月

「映象」第1輯 1925（大正14）年4月

「中央線」創刊号 1968（昭和43）年3月

中村鬼十郎

中村鬼十郎『傾斜地の村』1943（昭和18）年9月 アジア青年社

中村鬼十郎『慟哭の川』1976（昭和51）年10月 甲陽書房

熊王徳平

熊王徳平『いろは歌留多』1942（昭和17）年2月 第一芸文社

熊王徳平『無名作家の手記』1957（昭和32）年12月 講談社

熊王徳平『甲州商人』1958（昭和33）年9月 五月書房

熊王徳平「山の端を月上るなりきりぎりす」色紙

加賀美実

窪川鶴次郎 加賀美実宛書簡 年不明9月27日

加賀美実『昭和初年の青春』1967（昭和42）年6月 福岡書房

加賀美実『蛙』1984（昭和59）年4月 文化総合出版

小林 実

「講談倶楽部」第11巻第12号 1959（昭和34）年12月

小林実『白い太陽』第一部・第二部 1961（昭和36）年3月 東京信友社

鳴山草平

鳴山草平「墮ちたる英雄」原稿

「新青年」第20巻第5号 1939（昭和14）年4月

「金びら先生とお嬢さん」台本 1953（昭和28）年 松竹

羽中田誠

野間仁根『酔いどれ記者』挿絵原画

羽中田誠『墓碑銘』1973（昭和48）年2月 東邦出版社

保坂義照

保坂義照『武田二十四将論』1944（昭和19）年2月 アジア青年社

保坂義照『愁風天目山』1952（昭和27）年9月 農村文化協会

小川正子

小川正子『小島の春』1939（昭和14）年4月改版 長崎書店

金子文子

金子文子『何が私をかうさせたか』1931（昭和6）年7月 春秋社
『金子文子歌集』1976（昭和51）年3月 黒色戦線社

大町桂月

大町桂月「ふもとより頂までも富士の根を背負ひてのぼる八ヶ嶽哉」他短歌幅

野尻抱影

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910（明治43）年5月19日〈複製〉2010.3.9～展示
山口誓子・野尻抱影『星恋』1946（昭和21）年6月 鎌倉書房

平賀文男

平賀文男『日本南アルプス』1929（昭和4）年6月 博文館
「山と溪谷」第168号 1953（昭和28）年6月 山と溪谷社

寺田重雄

寺田重雄『甲州魚風土記』1980（昭和55）年12月 芸文社
「鶴 nue」終刊号（寺田重雄追悼号）1995（平成7）年

芦澤一洋

芦澤一洋『アーヴィングを読んだ日』1994（平成6）年11月 小沢書店
芦澤一洋『アウトドア・ものローグ』1985（昭和60）年8月 森林書房
芦澤一洋『山女魚里の釣り』1989（平成元年）年2月 山と溪谷社
芦澤一洋『自然とつきあう五十章』1979（昭和54）年6月 森林書房
芦澤一洋『バックパッキング入門』1976（昭和51）年 山と溪谷社
芦澤一洋『フライフィッシング全書』1983（昭和58）年 森林書房

山中共古

山中共古『甲斐の落葉』1926（大正15）年11月 郷土研究社

土橋里木

南方熊楠 土橋里木宛葉書 1930（昭和5）年12月19日
土橋里木『山梨県の民話と伝説』1979（昭和54）年7月 有峰書店
土橋里木『山村夜譚』1993（平成5）年6月 近代文芸社

大森義憲

大森義憲『甲州年中行事』1952（昭和27）年11月 山梨民俗の会

中沢 厚

中沢厚『山梨県の道祖神』1973（昭和48）年5月 有峰書店
中沢厚『つぶて』1981（昭和56）年12月 法政大学出版局

浅川伯教

「白磁」創刊号 1922（大正11）年4月
浅川伯教『釜山窯と対州釜』1930（昭和5）年7月 彩壺会

浅川 巧

浅川巧『朝鮮の膳』1929（昭和4）年3月 工政会出版部

永峯秀樹

永峯秀樹『暴夜物語』第1編・第2編 1875（明治8）年2月、5月 山城屋

矢崎源九郎

矢崎源九郎訳『アンデルセン童話名作集』1955（昭和30）年3月 筑摩書房
矢崎源九郎『これからの日本語』1960（昭和35）年2月 三笠書房

【童話・童謡】

大村主計

大村主計『ばあやのお里』1932（昭和7）年1月 児童芸術社
「楽しい童謡集」レコード盤 1959（昭和34）年 コロムビアレコード
大村主計筆「花かげ」書画

米山愛紫

「チチノキ」第18冊 1935（昭和10）年3月
米山愛紫『春の停車場』1942（昭和17）年6月 文昭社
『米山愛紫歌謡集』1975（昭和50）年7月 甲府ライオンズクラブ

小野政方

小野政方『りんごののぞみ』1928（昭和3）年10月 研究社
小野政方『愛児読本』ひらかなの巻 1934（昭和9）年10月 厚生閣

太田黒克彦

太田黒克彦「マスの旅」原稿
太田黒克彦『山ばとクル』1962（昭和37）年5月 講談社

山北しげり

山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月 宏文堂書店
「シャボン玉」1937（昭和12）年2月

塩沢 清

塩沢清『ガキ大将行進曲』1977（昭和52）年4月 旺文社
塩沢清『五年五組の秀才くん』1982（昭和57）年4月 ポプラ社

【戯曲・脚本】

小林一三

小林一三『歌劇十曲』1917（大正6）年10月 玄文社
小林一三『曾根崎艶話』1948（昭和23）年10月 芙蓉書房

河野義博

中村吉蔵・河野義博『近代演劇史論』1921（大正10）年12月 日本評論社
「演劇」創刊号 1932（昭和7）年4月

大木直太郎

「月水金」1月号 1938（昭和13）年1月
大木直太郎『大木直太郎戯曲選集』1998（平成10）年5月 陽光台OAプラザ

菊島隆三

菊島隆三・黒澤明共同脚本「用心棒」台本（第2稿）
菊島隆三・黒澤明・小国英雄共同脚本「椿三十郎」台本（決定稿）
菊島隆三他共同脚本「トラ・トラ・トラ！」台本（決定稿）

小柳津浩

小柳津浩『学校演劇論』1953（昭和28）年11月 甲陽書房
小柳津浩『青年演劇脚本集』1958（昭和33）年7月 甲陽書房
『小柳津浩脚本集 二発の銃声』1986（昭和61）年9月 山梨舞台芸術センター

竹内勇太郎

竹内勇太郎脚本「濁流」台本
山本有三作・竹内勇太郎脚本「真実一路」台本（第2稿）
竹内勇太郎作・演出「樋口一葉考」チラシ 1983年10月 水道橋労音会館ホール
竹内勇太郎『山本勘介』第1巻 1985（昭和60）年8月 学習研究社

後期展示55名 10月18日（火）～3月15日（日）

【詩】 20名

青柳瑞穂

青柳瑞穂『睡眠』1931（昭和6）年1月 第一書房
青柳瑞穂「ハへ撃ち」原稿

尾崎喜八

尾崎喜八『旅と滞在』1959（昭和34）年5月 創文社
尾崎喜八「遠い日の山小屋」原稿（複製）

金子光晴

金子光晴「多勢のイヅに」原稿
金子光晴『こがね蟲』1923（大正12）年12月 新潮社

杉原邦太郎

杉原邦太郎『火山』1930（昭和5）年2月 機山閣書店
杉原邦太郎「昨日は靡く翠であった 今日には暮春の堇であった きふもけふも素直であった 平和な土鳩の眠りのように」色紙

内田義廣

内田義廣「街」原稿
内田義廣『花の群落』1976（昭和51）年4月 日本未来派の会

上野頼三郎

上野頼三郎『村の生活』1930（昭和5）年10月 村落社
「山脈」創刊号 1930（昭和5）年8月
上野頼三郎「あけぼの」原稿

山口啓一

山口啓一『石炭と花』1930（昭和5）年5月 機山閣書店

中室員重

中室員重『兵隊詩集』1931（昭和6）年8月 海図社

米澤順子

米澤順子「額のある静物」油彩
米澤順子「或日ひとに」詩稿
米澤順子『聖水盤』1919（大正8）年11月 東京堂

米倉寿仁

米倉寿仁『透明ナ歲月』1937（昭和12）年4月 西東書林

宮田樞夫

「甲府派」創刊号 1954（昭和29）年11月

宮田樞夫『仮面』1954（昭和29）年10月 甲府派発行所

宮田樞夫「オパールの変転ルビーの紋章そしてサファイヤの採光無限の光輪をつみ重ねるこのきらめきで私は人の肌を飾りたい」色紙

曾根崎保太郎

「未踏」創刊号 1950（昭和25）年3月

曾根崎保太郎「ミューズの乳を祝福しバッカスの歌を讃えて葡萄を選ぶ」色紙

曾根崎保太郎『灰色の体質』1954（昭和29）年11月 甲府派発行所

野澤 一

野澤一「四十一歳三月三日夜作」未定稿

「童子行」1号 1937（昭和12）年5月

野澤一『木葉童子詩経』1976（昭和51）年11月 文治堂書店

津嘉山一穂

津嘉山一穂「未刊詩集」草稿

「リアン」創刊号 1929（昭和4）年3月

鈴木久夫

鈴木久夫「断崖」原稿

鈴木久夫『断崖』1930（昭和5）年11月 民謡レビュー社

鈴木祐之

鈴木祐之「心の頂きに」原稿

鈴木祐之『わたしのヒロシマ』1969（昭和44）年3月 甲陽書房

小林富司夫

「詩人群」第1集 1948（昭和23）年3月

小林富司夫『きいろい炎』1949（昭和24）年5月 中部文学社

小林富司夫「地は落葉線路の枕木を一本一本渡ってゆくと満月がいたぼくは冬の満月をすぎた」色紙

土橋治重

土橋治重 詩集『花』1953（昭和28）年1月 日本未来派発行所

「風」129（終刊）号 土橋治重追悼号 1993（平成5）年12月

土橋治重「甲州は颯爽と山々が肌を脱いでいた夜は深々と星がかがやいた」色紙

中込純次

中込純次「詩集 母と恋人」原稿

一瀬 稔

一瀬稔 筆 のむら清六 画「裏山で」幅

一瀬稔 詩集『山鷄』1940（昭和15）年10月 中部文学社

【短歌】 15名

伊藤生更

伊藤生更ほか寄せ書き 折帖「迫りたる大いなる石の間より一気に落つる水を見てをり」

「美知思波」第1巻第3号 1935（昭和10）年5月
伊藤生更『柴山』1951（昭和26）年 美知思波発行所

中村美穂

「アララギ」第18巻第5号 1925（大正14）年5月
「みづがき」第3巻第1号 1930（昭和5）年1月
中村美穂『佛顔』1931（昭和6）年9月 みづがき社

相澤貫一

相澤貫一『石水集』1971（昭和46）年6月 発行人 古谷幸江

若尾隣平

若尾隣平 歌帖「顛覆帖」
『若尾隣平遺稿集』1971（昭和46）年1月 発行人 若尾朗

中大路佳郷

中大路佳郷「われ生れし虎年なれば病める身に渴を入れつつ初陽あみをり」短冊
「須曾乃」第3巻第7号 1941（昭和16）年7月
中大路佳郷『華葩』1987（昭和62）年2月 須曾乃短歌会

伊藤映二

伊藤映二「西行はどこら辺りで笠上げて見たであろうか赤い富士」色紙
伊藤映二『揺籃時代』1926（昭和2）年10月 上田書店
「歌人動向」創刊号 1938（昭和13）年4月

飯野真澄

飯野真澄「広き田の南寄りに黒牛は立ちて居るなり代掻を止めて」色紙
『飯野真澄歌集』1971（昭和46）年8月 白玉書房

青木辰雄

青木辰雄「六階の食堂にゐてやややに茜うする時を過ぎしぬ」短冊
『青木辰雄歌集』1988（昭和63）年8月 発行 青木文子
「山梨歌人」創刊号 1946（昭和21）年8月

相澤 正

『相澤正歌集』1954（昭和29）年1月 白玉書房

許山茂隆

許山茂隆「病院に歌のメモ帖持ちゆけどけふも空白のまゝ持ちかへる」色紙
許山茂隆『帰園』1947（昭和22）年7月 国民文学社

鈴木 孝

鈴木孝「鶏が空の餌鉢をつつく音寒けく聞ゆ夕べの脊戸に」短冊
「樹海」創刊号 1954（昭和29）年7月
鈴木孝『丘のある街』1966（昭和42）年10月 甲陽書房

渋谷 俊

渋谷俊「新らしき家居建ると地の神にまづこそ祈れ永久の栄えを」色紙
渋谷俊『華鬘』1939（昭和14）年4月 柳正堂書店

渋谷玻璃子

渋谷玻璃子『無礙の光』1929（昭和4）年12月 柳正堂書店

茂手木みさを

茂手木みさを『ひとり旅』1965（昭和40）年9月 新星書房

佐野四郎

佐野四郎「富士川の雨後の出水の押しきたるあかきなかれは春来しを告ぐ」色紙
佐野四郎『杉の花粉』1934（昭和9）年7月 朝日書房
「コスモス」432号 1988（昭和63）年12月

【俳句】13名

今村霞外

今村霞外『法燈』1954（昭和29）年8月 私家版
今村霞外「初汐にのりて美しすて扇」短冊

五味洒蝶

五味洒蝶「寒曝をみる人まれに石叩」短冊
五味洒蝶『洒蝶句集』1964（昭和39）年9月 雲母社

辻 蔭村

辻蔭村「曼珠沙華その鮮烈を他には見ず」短冊
「青栗」創刊号 1951（昭和26）年9月
辻蔭村『樹影』1973（昭和48）年7月 雲母社

榎本虎山

榎本虎山「蛩るていのち静かに露を染む」短冊
榎本虎山『餘花』1972（昭和47）年1月 雲母社

角田雪弥

角田雪弥「竹の葉によすがのひかり冬の水」短冊
角田雪弥『畦火』1987（昭和62）年7月 竹頭書房

山田岫雲

山田岫雲「山駅の夜半の人数や富士道者」短冊
山田岫雲『朴の花』1975（昭和50）年11月 発行 山田武雄

柏木白雨

柏木白雨「夕富士のほの紫や花の上」短冊
柏木白雨『白雨句集』1977（昭和52）年7月 若葉社

鈴木青処

鈴木青処「祖母のゐて紅梅苔む子の娶り」短冊
山口青邨選「稿本青処句集」

堤俳一佳

堤俳一佳「虚子庵の梅見頃なる年賀哉」短冊
堤俳一佳『俳一佳句集』1951（昭和26）年4月 裸子発行所
「裸子」創刊号 1949（昭和24）年10月

加賀美子麓

加賀美子麓「母の臉見て父に凭るるよ日短」幅
加賀美子麓『火度』1987（昭和62）年8月 牧羊社

赤堀五百里

赤堀五百里「この道を芭蕉も行きぬ葛の風」色紙
赤堀五百里『萬里』1995（平成7）年5月 読売・日本テレビ文化センター

石原八束

石原八束「原爆地子がかげろふに消えゆけり」短冊
石原八束『秋風琴』1955（昭和30）年8月 書肆ユリイカ
「秋」創刊号 1961（昭和36）年10月
「麓」創刊号 1990（平成2）年3月

新免一五坊

正岡子規 新免一五坊宛はがき 1899年10月1日消印
新免一五坊「冬日とははうふつとしてある思ひ」短冊

【川柳】 4名

篠原春雨

篠原春雨「三階の一間に小僧病んでゐる」色紙
『篠原春雨句集』1929（昭和4）年8月 春雨句集刊行会

中沢春雨

中沢春雨「団十郎日本一の目玉なり」短冊
『騒愁 中沢春雨川柳句集』1967（昭和42）年11月 甲陽書房

雨宮八重夫

雨宮八重夫「一本の道あり明日へひた行かな」色紙
雨宮八重夫『遍路美知』1977（昭和52）年9月 サンケイ新聞社

田中浮世亭

田中浮世亭「浮世亭句抄」

【漢詩】 3名

香川香南

香川香南『香南詩鈔』1926（大正15）年11月
香川香南『香南晚稿』1934（昭和9）年12月

笠井南村

笠井南村七言絶句「還郷有感」色紙 複製
『翰墨縁』詩稿・印譜

村松蘆洲

村松蘆洲「送兒定孝之瑞西」色紙
村松蘆洲『蘆洲詩集』1980（昭和55）年5月 発行人 村松定孝